

3. 経済学部・経済学研究科・経済貿易研究所

経済学部・経済学研究科

【到達目標】

本学部の教育目標を達成するためには優れた教育環境が条件となる。この教育環境のハードの側面が施設・設備である。この点で、以下の2点を到達目標とする。

- (1) 履修者数が教室の定員を超える授業が複数あり、これを解消するため、時間割の再編成とともに施設面での拡充をはかるべく努力する。
- (2) 情報教育の充実のため学生のコンピュータの利用にさらに便宜を与えるべく設備を整える。

【現状説明】

(1) 時間割の再編成及び施設の拡充

1) 履修者数が定員をオーバーする科目と超過率

教育施設においてもっとも大きな問題は教室の不足である。これは文系学部共通の問題でもあるが、とりわけ学生数4,841人を抱えた本学部においては深刻であり、問題が指摘されながら未だに解決されていない問題である。

表は、月曜日から金曜日の1～5限に開講されている講義科目（外国語科目、ゼミナール、情報科目、入門科目を除く）のうち、履修者数が教室の定員をオーバーする科目と超過率を示したものである。

各曜日の講義の開講コマ数と履修者超過の状況（2008年）

曜日	開講コマ数	超過率100%以上の講義数	科目名	教室定員	履修人数	超過率
月曜日	24	5	中小企業論 I	608	952	155.8%
			財務会計論	384	576	150.0%
			社会経済学 I	224	226	100.9%
			広告論 I	608	883	145.2%
			国際金融論 I	284	356	125.4%
火曜日	19	5	経営管理論 I	384	645	168.0%
			経済学史 I	358	515	143.9%
			社会経済学 I	288	377	130.9%
			経営史 I	180	250	138.9%
			経済哲学 I	89	124	139.3%
水曜日	24	8	日本経済史 I	284	365	128.5%
			人的資源管理論 I	608	688	113.2%
			流通論 I	368	470	127.7%
			証券市場論 I	384	692	180.2%
			古文書購読 I	224	238	106.3%
			ヨーロッパ経済論 I	288	355	123.3%
			商品学	89	124	139.3%
			消費文化論	224	252	112.5%
木曜日	22	3	交通論 I	368	439	119.3%
			流通史 I	286	362	126.6%
			現代資本主義論 I	180	184	102.2%

金曜日	20	4	労働経済論 I	204	229	112.3%
			経済統計 I	89	122	137.1%
			開発経済学 I	286	336	117.5%
			国際運輸論 I	89	89	100.0%

超過率100%を超えている講義が25あり、しかも超過率がかなり高いという現実がある。超過率を超えた講義では、学生の出席意欲および学修意欲を削ぎ、席を確保するために1時限前の授業中に教室に入り席取りをするという状況が日常化している。

2) 講堂の稼働率

下表は、月曜日から金曜日までの講堂の稼働率を示している。10号館の2講堂は定員が608人の大教室であり、また各号館の教室は様々な規模の講堂で構成されている。これをみると、稼働率は比較的高く、2時限から4時限にかけて高い。履修者数は科目で異なり、各時限の複数の科目を適切な規模の教室に配置するには教室に余裕はなく逼迫していることがわかる。ただ1時限と5時限で稼働率が相対的に低く、講義の教室割当に余裕がある。

2008年前期の横浜キャンパスの主要講堂の稼働状況（主として文系学部の共用）

月曜日	講堂数	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	7	41%	12	71%	13	76%	9	53%	12	71%
8号館	12	7	58%	11	92%	6	50%	8	67%	6	50%
10号館	2	1	50%	1	50%	2	100%	2	100%	1	50%
11号館	17	9	53%	7	41%	16	88%	15	88%	0	0%

火曜日	講堂数	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	9	53%	14	82%	16	94%	14	82%	8	47%
8号館	12	8	67%	10	83%	12	100%	11	92%	8	67%
10号館	2	2	100%	1	50%	2	100%	2	100%	2	100%
11号館	17	9	53%	15	88%	13	76%	15	88%	0	0%

水曜日	講堂数	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	10	59%	15	88%	13	76%	14	82%	8	47%
8号館	12	11	92%	12	100%	10	83%	12	100%	9	75%
10号館	2	2	100%	2	100%	2	100%	2	100%	2	100%
11号館	17	13	76%	16	94%	10	59%	11	65%	0	0%

木曜日	講 堂 数	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	8	47%	15	88%	13	76%	16	94%	11	65%
8号館	12	8	67%	11	92%	11	92%	11	92%	9	75%
10号館	2	1	50%	2	100%	2	100%	2	100%	1	50%
11号館	17	14	82%	12	71%	10	59%	13	76%	0	0%

金曜日	講 堂 数	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	11	65%	10	59%	12	71%	10	59%	6	35%
8号館	12	6	50%	10	83%	12	100%	12	100%	9	75%
10号館	2	0	0%	1	50%	2	100%	2	100%	0	0%
11号館	17	13	76%	11	65%	13	76%	10	59%	1	6%

土曜日	講 堂 数	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限	
		コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率	コマ数	稼働率
7号館	17	6	35%	9	53%	11	65%	11	65%	7	41%
8号館	12	7	58%	8	67%	8	67%	6	50%	6	50%
10号館	2	0	0%	2	100%	1	50%	1	50%	1	50%
11号館	17	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%

(2) 情報処理機器などの配備状況

本学部には学部専用の2つのパソコンルームがある。この2つの教室は演習室が並ぶ9号館にあり、2つの教室に合計65台のパソコンが設置されている。使用目的は授業に限られ、主として導入科目であるFYSとゼミナールで使われている。ただ、卒業論文等学生の特別な研究活動においては、授業で使われていない時間帯に限り許可を与え利用させている。

この本学部専用のパソコンルームとは別に、学生が自由に利用可能なコンピュータ室が8つある(6号館に3室、7号館に1室、20号館に1室、23号館に3室)。これらのコンピュータ室はいずれも全学の共同利用であり、合計600台のパソコンが設置されている。本学部学生は授業やゼミナール等に関連する学修および個別の研究にこのコンピュータ室を利用している。

【点検・評価】

- (1) 講堂の不足は深刻な問題といてよい。本学部の1学年の定員は2006年度740人から1,100人に大幅に増え、入学者の実数は、入学者数が定員をオーバーしないとして160人前後増加している。入学者数の増加は法学部も同様であり、さらに2006年度に新設された人間科学部が300人の学生を毎年受け入れている。この学生数の増加に対して、文系の学部が共同で利用する教室数は増えていない。定員オーバーの講義が多いという現実はずでに2006年度以前から問題化されていたが、学生数の急増によってさらに深刻化している。

本学部では、「教育課程等」で示したように、複数開講化や成績評価の統一化によって特定科目への集中を避けてきた。しかし、学生の絶対数が多いことで履修者数が定員を超えている授業もあり、教室の拡充等施設の面での整備が必要である。

講義の時間帯で見ると、1時限から5時限の間で教室の稼働率に差があり1時限と5時限で相対的に低い。このため、他の文系学部と歩調を合わせて講義の時間帯の分散化を進める必要がある。ただ、1時限については必修の外国語や導入科目である「FYS」、「経済入門」が配置されており、講義科目の分散にも一定の限界がある。

- (2) 本学部専用のパソコンルームについては適切に利用されており、特筆すべき問題はない。しかし、学生が自由に使用できる全学共用のコンピュータ室については、授業で使われる時間が多く、学生の自由な利用を大きく制約している。

【改善方策】

- (1) 教室の不足によって授業の環境は良くない。解決すべく学部として努力を行ってきたが、施設面での未整備がネックとなっている。全学的にも、また本学部においても教育環境の改善のため教室を増やすことが求められる。
- (2) 全学共用のコンピュータ室は授業と兼用であるため、学生が常時利用可能な設備が不足している。このため、本学部においては学生が授業の準備、レポートや論文作成等の目的で常時コンピュータを利用できるように施設を整える必要がある。

経済貿易研究所**【 現状説明 】**

経済貿易研究所は、学部及び大学院研究科における教育と研究の充実のために不可欠の部署である。本研究所は事務的業務を行うとともに、雑誌や統計資料等を整理・保管する1号館516室からなる（なお、本研究所所蔵の図書は経済学部の資料室である1号館513室と1号館616室にも保管されている）。1号館516室は所員や非常勤講師などが教育・研究に関する情報交換を行ったり、歓談したりする交流の場としても機能している。また、本研究所は教育・研究に必要な設備として、書架・書庫、コピー機、情報処理機器などを備えている。

【 点検・評価 】

本研究所が当該年度に受け入れている和洋雑誌、大学紀要、統計資料等については、書架に配架しており、その中で本研究所が直接購入している雑誌、統計資料、過年度分の大学紀要等については、書庫に保管している。書架・書庫に関しては、①老朽化が進んだ書架があり、雑誌・資料等の配架に不便をきたしているものがある、②現在でも、書庫は十分なスペースを確保しているとは言えず、近い将来、雑誌・資料等の整理・保管が困難となることが予想される、という問題がある。

所員は、研究のために、また、講義教材作成のために頻繁にコピー機を利用しているが、必要度に応じてコピー機の拡充がなされておらず（現在、コピー機は2台で、ソート・ホッチキス止めの機能があるのはそのうち1台）、順番待ちをするなどの不便をきたしている。

情報処理機器に関しては、現在、本研究所担当の職員が専用で使用できるパソコンは1台あるが、最新のOSを備えたものではなく、所員から送信されてきたファイルを開くことができないなどの問題が生じている。

最後に、本研究所は、所員や非常勤講師などの交流の場として十分機能しており、今後とも、そのように機能することが期待される。

【 改善方策 】

- (1) 書架・書庫は、所員の教育・研究に必要な資料を整理するために不可欠の設備であることから、書架を最新のものにし、書庫についても、将来を見据え、拡充することが求められる。
- (2) 各所員はきめ細かい教育を行うために、講義用のレジュメや資料を作成し、そのコピーのためにコピー機を頻繁に利用しているが、コピー機を利用するのに順番待ちをするという事態が、とりわけ学期初めによく見られる。早めに資料等を作成し時間的余裕を持ってアルバイトにコピーを依頼するなどの工夫をするとともに、コピー機を拡充する必要がある。
- (3) 充実した教育・研究のためには事務体制の整備が必要であり、その一助として、最新の情報処理機器の導入とその拡充が不可欠である。